

福島工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	法学概論	
科目基礎情報							
科目番号		0097		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		講義・演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		建設環境工学科 (R2年度開講分まで)		対象学年	4		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		有澤知子『新・法と社会生活』(尚学社)、『法学六法´17』(信山社)					
担当教員		大岩 慎太郎					
到達目標							
①社会生活における法的基礎知識の習得。 ②ビジネスと関わりの深い法領域についての基礎知識の習得。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (F)							
教育方法等							
概要		社会生活の中に存在する法律問題に対処するための法の基礎知識について解説する。					
授業の進め方・方法		中間試験は実施しない。期末試験は50分の試験を実施する。 定期試験の成績100%で評価し、60点以上を合格とする。					
注意点		授業中に配布されたプリント等は、必ずファイルすること。 また、課題・レポートは期限・様式などを厳守すること。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 法とは何か		法と常識、規範としての法、条文の読み方		
		2週	法と正義		法と正義、法と道德の関係		
		3週	法の体系		法秩序、成文法と不文法、公法と私法		
		4週	法の適用と解釈		法適用のあり方と法解釈		
		5週	人と法的能力		権利能力、行為能力、法律行為		
		6週	暮らしと法 I		契約、信用と法		
		7週	暮らしと法 II		不動産と法		
		8週	家庭生活と法 I		婚姻、親子関係と親権		
	2ndQ	9週	家庭生活と法 II		相続と相続税		
		10週	法と裁判		裁判制度、裁判員制度		
		11週	トラブルと法		損害賠償、交通事故、製造物責任		
		12週	雇用社会と法 I		雇用関係における最低基準		
		13週	雇用社会と法 II		就業規則と労働協約、労働組合		
		14週	企業倫理と法		会社法、コンプライアンス		
		15週	憲法と基本的人権		憲法、基本的人権確立の歴史		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3		
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3		
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3		
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3		
				国家間や国内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3		
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3		
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	4		
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	4		
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	4		
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	4		

				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	4		
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4		
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	4		
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	4		
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4		
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	4		
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	4		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0